



“Sancti Francisci Xaverij epistolarum libri quatuor” (『聖ザビエル書簡集』) ラテン語版
ルグドゥヌム (リヨン)、1682年。

本学図書館所蔵

た5通の書簡には全て1549年11月5日の日付があります。特に第3章にある5通目の書簡は40頁にのぼり、日本に至るまでの航海の様子や、日本上陸後の出来事、さらには日本人及び日本の文化を高く評価した報告などが記述されています。残る1通は1550年で、正確な日付はありませんが山口で書かれたものです。

■トルセリーニとその仕事

トルセリーニという人物については、前の項目で紹介する通りですが、彼は1544年に生まれ、1599年に死去しています。(但し、ローマとフィレンツェにある国立中央図書館の書誌データでは生年が1545年となっている。) 死亡年齢は恐らく55歳であったと思われます。また、彼の最大の研究対象となるザビエルの帰天時は、8歳前後であったと考えられます。

トルセリーニ自身がイエズス会へ入ったのは1562年の18歳の時とされています。その後、20年から22年にわたって、ローマの大学やイエズス会学院などで教育職に就いていた経歴を加算しただけで大凡40歳に達します。そこに、生涯を通じて11冊の編著書があるとされています。それらは当然、教員時代に著したものが多いと考えられますが、研究時間を考えると忙しい人生であったと想像できます。

トルセリーニについては、情報が少なく推測の域を出ませんが、彼が本格的にザビエルの書簡を整理し、翻訳をしはじめたのは恐らく40歳

前半と推定でき、約10年を要して1594年にはザビエルの伝記である『聖ザビエルの生涯』を完成させたのではないかと考えられます。そして、先に紹介した『増訂版 聖ザビエルの生涯』ができたのは2年後の1596年、これはトルセリーニの亡くなる3年前のことでした。

後世の研究者によれば、トルセリーニは先人が得ていた研究成果をもとに、各地に残る未発見の書簡を少しでも多く探しだし、スペイン語からヨーロッパの共通言語とされたラテン語への翻訳に時間を要していたとされています。

■トルセリーニの大事業を讀んで

当時のヨーロッパの印刷術は既に技術的な揺籃期を抜けており、1590(天正十八)年の少年使節の帰国時にはイエズス会が九州へ印刷機を持ち込むなど、世界各地へ広がっていました。

そして、この技術がヨーロッパ各地で『聖ザビエルの生涯』や『聖ザビエル書簡集』の多くの言語版を作ることに貢献し、これらの書物は言語的な広がりの中で次第に権威を高めていきます。

それでも、16世紀末期の出版数は少なく、また、識字率の関係などから読者層も限られており、書物から民衆へ直接に内容が伝わることは珍しいことでした。従って、ザビエルの日本情報は書物を読んだ聖職者などから、口頭で伝播することが多かったと考えられます。

このように、現代社会で生活する私たちが16世紀後半のヨーロッパ社会を振り返ると、当然のことながら環境の違いが随所に現れます。特に、人々の地理的な移動にかかる時間や、文書の管理と整理・学術情報の流通と検索技術などが大きく異なっていることを考えると、ザビエルの情報を書物にしたオラチオ・トルセリーニの事業の偉大さがわかるのです。

主な参考文献

- 河野純徳訳『聖フランシスコ・ザビエル全書簡』全4巻 平凡社(東洋文庫)1994年。
- 『日本をヨーロッパに紹介した戦国期の宣教師たち(展示目録)』京都外国語大学付属図書館 2006年。

おく まさよし (司書・図書館事務長)